

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3650280211
法人名	医療法人 真誠会
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字四ノ越3番 (電話)088-685-3605
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 6月 26日

## 【情報提供票より】(平成19年 6月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成13年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.5 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	理美容1回1,000円・その他実費	
敷金	有( )円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	原田内科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年より開設したグループホームは、併設している介護老人保健施設の庭の樹々と調和して落ち着いた雰囲気がかもし出されている。経営者や管理者、職員の介護に対する熱意や取り組みも充実した記録の中に見ることが出来る。「陽だまり苑」と共同での行事や旅行があり、社会参加をすることによる「生きがい」が利用者の明るい表情や会話の中に生きている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	運営理念は、各ユニット正面玄関の、わかりやすく見やすい場所に掲げられていた。また、重要事項説明書の中に利用者の権利・義務について明確に記載されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は、経営者、管理者、職員が時間を掛けて話し合い作成している。外部評価を改善の指標にして利用者へのケアの質が最善の物になるように努力をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2カ月に1回開催している。出席者は、市の介護保険担当者、民生委員、老人会、家族会の代表者、地域包括支援センターの職員、経営者、管理者等でグループホームの取り組みなどについて話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族や利用者の意見、希望を聞き、苦情等にすぐ対応するようにしている。介護相談員の受け入れや市の介護保険職員との話し合いをして外部の人の視点を大切に、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	日常の挨拶から地域の方々との馴染みある関係作りをしたり、地域の老人会や秋祭り、阿波踊りに参加したりして交流を深めている。地域のスーパーには「グループホーム ひなたぼっこ」を知ってもらうために広報のパンフレットを掲示してもらう等の依頼をしている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の「理念」をそれぞれのユニットの玄関に大切に掲げてあり、経営者や管理者、職員の「地域密着型サービス」に対する役割や想い等が伝ってくる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はミーティング等で理念について話し合い、その「理念」の実践に向けた努力を行っている。		
の中で					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が、地域の行事（老人会、阿波踊り、秋祭り、保育園の運動会等）に参加したり、地域の人達がグループホームに気軽に訪問してくれるなど、地域との温かい交流ができています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	経営者や管理者、職員は、時間をかけてよく話し合い自己評価を作成している。外部評価の結果は改善に向けた指標として話し合い取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1回開催しており、グループホームの取り組んでいる情報を提供し、職員と参加者間で意見交換をして連携に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が月2回グループホームを訪問して入居者と語り、相談に応じている。また、年1～2回市の介護保険課職員を含めた介護相談員報告会も開いており、グループホームの優れた点や改善点の指摘があり、そのことを利用者のケアの質の向上に繋げるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ひなたぼっこ だより」を配布したり、電子メールや電話でも利用者の元気な姿を伝えたりしている。また、金銭管理についても報告をしている。緊急の時はすぐ家族に連絡をするようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、意見や要望を聞く機会を設けている。また、家族同士の繋がりを大切にするよう働きかけている。苦情等にはすぐ対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に押さえるようにして、ケアの質を確保し利用者や職員の絆を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週(土曜日)に開催している法人内の勉強会で日頃の取り組みを発表したり、他の部署の発表からも学ぶ機会を作っている。法人外の研修や講演に参加して、そのことを報告したり、閲覧できるようにして職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム協会県支部役員を担っており、他の事業所や職員との繋がりもあり、研修会への参加活動を通しての意見交換や交流の機会が豊富にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、職員が訪問して説明し、家族や本人に見学してもらっている。最初は、デイサービスの利用から始めてグループホームへの理解をしていただき、本人の気持や身体状況、家族の意見を大切にしながら納得していただき、ゆっくりと利用に繋げるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りの得意な人、絵画の上手な人、踊りの好きな人等がいて、その人の趣味や特技、個性や想いを相互に支え合える関係を構築し、楽しく充実した生きがいを作るようにしている。職員の弾く三味線で、利用者と職員が共に踊り、全員が和になり、笑顔になり、自然と優しい気持ちになる場面が見られとてもよかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者をよく観察し、何がしたいのかを見極め、さりげなく利用者に寄り添い、尊厳を大切にしながら支えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はセンター方式シートの一部を採用しており、本人、家族の意見、医師、職員の意見を総合して作成している。職員は担当制にして利用者との関係を密にし、カンファレンスの時には、全職員の気づきや視点を出し合い、連携した介護計画になるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月毎の見直しをしながら、利用者の身体状況や精神状態の変化に合うように、その都度計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議の開催の時や「ひなたぼっこだより」のパンフレットなどでホームの情報を広報し、地域の理解を深めるようにしている。利用申し込みや希望があれば、すぐに対応できるように準備を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を聞いて医療機関の受診に応じて、家族の都合に合わせた通院援助も実施しており、法人内の医師や地域の医療連携体制を活かして利用者を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する利用者や終末期の医療のあり方について、医師や本人、家族、ケア関係者がよく話し合い、選択する医療について、早い時期からチームを組んでよりよい対応をするように考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーを大切にすることを十分自覚している。生活の中で利用者に対する声掛けや対応がゆったり自然に行われており、利用者の安定が態度や表情に現れていてよい雰囲気が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが大切にしている趣味や特技を把握し、職員が支え寄り添っている。利用者が外に出られそうな場合には、同行するなどさりげなく支援をするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、グループホームの職員が、利用者の身体状況や気持ちを大切にしながら一緒に買い物をしたり、調理、盛りつけなどを協働でしている。利用者と職員は、同じ内容の食事を摂り、会話を楽しみながら支え合う様子が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて毎日入浴できるように準備をしている。一人ひとりの入浴回数を把握し、記録して、清潔に過ごせるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りが趣味の利用者は、それを、生きがいにしている。絵画の趣味のある人は、絵を居室に飾り、リビングには見事な作品が掲げてあり、利用者や職員、訪問者が共に鑑賞できる。阿波踊りの上手な人は、職員の三味線に合わせて踊り、全員が楽しい雰囲気でも過ごしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事、散歩、園芸、買い物など、戸外に出かける事により日常的に身体機能の低下を予防するようにしている。地域の行事にも出かけ心地よい社会参加をしているので、利用者の表情も明るいものであった。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や中間扉も施錠しておらず自由に入出入りが出来るようになっている。昼間は鍵を掛けていないが、利用者の様子をよく観察して、外に出ようとされる時はそれとなく同行するなどの支援がされている。外出したときのマニュアルも用意している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震、水害時のための避難訓練を年2回実施している。自治会や運営推進会議でも協力をお願いしている。消防署の協力を得て避難訓練、避難経路を確認したり、消火器の使用方法を会得するようにしている。連絡網の整備もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を把握し記録している。利用者の体調に配慮してきざみ食、ミキサー食等の工夫もしている。嚥下の困難な利用者には、トロミを加えている。管理栄養士が献立の指導をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や室内の共用空間には季節の花があり、大きいソファでゆったり過ごせるようになっている。窓から明るい光が入り、家庭生活の心地よい調理の音やにおいを大切にしている。全体の見通もよく、落ち着きが感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活歴により、趣味を活かした折り紙や絵画を飾り、懐かしい家族の思い出の写真も飾ってある。キーボードを持ち込んで楽しむ利用者もいて、これまでの自分の生活を大切にしている様子が見られる。		